

ひとりだち

みみの助

きこえとことばの
支援センターだより
R7 年 6月号



だい かい なんちようとかべつし えん がつきゅうとうたんとうしゃ がくしゅうかい 第1回 難聴特別支援学級等担当者 学習会

5月28日(水)に、難聴特別支援学級等担当者学習会を行いました。県内の難聴特別支援学級
担当者や言語通級指導教室担当者、難聴乳幼児担任保育士等18名の方が参加されました。

授業参観を含めた校内見学や講話、グループに分かれての学習会を行いました。今回参加していた
いた、先生方からの感想を一部ご紹介します。 ※感想は原文のままです。

こうわ 講話について

講話「聴覚障がい理解と支援」

講師：当校教諭 吉田晃樹

- ・きこえにくいとはどういうことなのか、今まではっ
きりとイメージできていなかったことに気づきまし
た。難聴児に対する理解が深まりました。
- ・イヤーマフ、補聴器を実際使用させてもらい、
難聴のお子さんの聞こえの体験をさせてもらい、
聞こえとすることのためにエネルギーをいっぱい使っ
ているんだと実感しました。
- ・環境の配慮や身振り手振りなど、わかるように
伝える手段が大切だと思いました。

こうないけんがく 校内見学について

- ・校内に文字で分かりやすく伝えたり、カーペットの床
など、環境の配慮がたくさんされており、環境にも
配慮が大切だと思いました。お子さんたちが、楽しそ
うな表情をしていたので、「わかる」ことが「嬉しい」
に繋がっているのだらうなと感じました。
- ・とても丁寧な支援が受けられていることがわかりまし
た。子どもたちの表情がとても生き生きしているのが
印象的でした。
- ・今担当している学年の今の授業の様子、掲示物など
とても参考になりました。また、次年度へ、ここまでの
力をつけてやりたいなど見ることができ、ありがた
かったです。

聴覚障がい教育においては、まだまだ知識や情報を得る場が
少なく、学習会に参加された先生方も日々悩みながら指導を行っ
ていることがわかりました。このような会に積極的にご参加いただ
ける方が多くみえ、当校としても、外部に向けた学習会の重要性
を改めて感じました。第2回の学習会は8月21日に行います。
学習の機会を生かし、情報交換をしながら共に学び、聾学校の
幼児児童生徒だけでなく、地域で学ぶ聴覚障がい児への支援
も行っていきたくと考えています。

こうわ 講話の様子



こうりゅうかい 交流会について

【未就学グループ】

- ・同じような状況の先生方と悩みや実践し
ている工夫について共有することができ
ました。

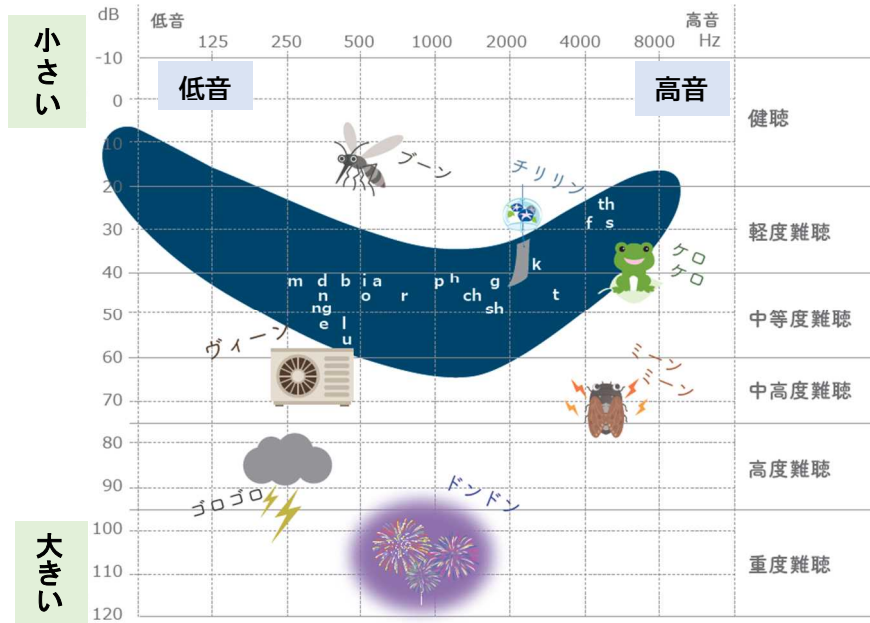
【言語通級グループ】

- ・悩みを聞いていただけたアドバイスをもらえ
るところが嬉しいです。参考資料もありがた
いです。

【難聴学級グループ】

- ・他校の先生のお話がとても参考になりま
した。交流会が貴重です。

はなひとみき 話す人を見て「聞く」



PHONAK
life is on より

このグラフは、縦軸（縦の方向）が音の大きさ、横軸（横の方向）が音の高さを表しています。また、紺色の「スピーチバナナ」と言われている部分と、これからの暑い季節に聞こえてくる生き物の声や音が示されています。「スピーチバナナ」は、世界で話されている言葉の音をグラフに表すとバナナのような形になることから、このように呼ばれています。

低く大きい音である母音 (a.i.u.e.o) は、500Hz付近にあり、他の子音と比べると、40 dB 以上のやや大きめの音なので、聞き取りやすい音であることが分かります。

一方、子音はほんの一瞬の発音であり、「スピーチバナナ」を見れば分かるように、高く小さめの音なので、聞き取りが難しくなると考えられています。特に、タ行、サ行、ハ行、カ行（上の図のカエルや風鈴のあたり）は、より高い音で、聞き取りにくい場合が多いです。聞こえにくい音の中でも、「タ」と「カ」は、どちらも「ア段の音」、「ス」と「フ」は、どちらも「ウ段の音」となり、同じ段の音と聞き間違いやすいとも言えます。

つまり、聴覚障がいのある人にとっては、読唇のみの会話は、全ての情報を正確に得ることは難しいということが分かります。会話をするときには、話し手（話す人）のことをよく見て、表情だけでなく口の形や舌の動き、身振り、または具体的な場面での話など、視覚的な情報を最大限に活用しながら聞く必要があるということです。手話や指文字を使った会話や筆談も、情報をしっかり得るためにはもちろん有効ですが、話す相手や話し手を見ながら「聞く」習慣を身に付けていけるといいですね。

7月 補聴相談の予定

* ナショナル補聴器センター 7月 2日、16日（毎月第1・3水曜日）
* 理研産業 7月 9日（毎月第2水曜日）

場所：本館1階 補聴相談室
時間：13時30分～相談が終わり次第終了

* イヤモード作成、補聴器の不具合等の相談は、業者来校日の前に、担任を通じて補聴相談係への連絡後、申込用紙の提出が必要です。

